

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
音楽表現 I Musical expression I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修 教職課程必修 (幼稚園教諭二種)) 児童フィールド	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程 (幼稚園教諭二種)、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤野理恵子	講義棟1階	木・金		授業中に指示します
授業の概要				
子どもの成長過程の中で、子どもと音楽との関わりは欠かせないものであり、音楽的な豊かな感性を育てるためには、保育者として、子どもたちの音楽的な成長を促すための表現活動の提供が必要となる。この授業では、子どもたちのための遊びの展開の中で歌唱表現をするために必要な音楽の基礎的な知識やソルフェージュ、技術を身につけ総合的な音楽の理解を深める。また、保育士、幼稚園教諭二種の資格取得を目指し、保育現場での実践展開のための技術を習得する。				
授業の目標				
①音楽の基礎理論をピアノ実技と関連付けて、楽譜を読むことで鍵盤楽器を演奏することができるようにする。 ②各年齢に適した教材 (日常、季節、行事の歌) を選定し、各年齢に応じた音楽表現の指導をすることができるようにする。 ③子どもの音楽的成長と発達を把握した上で指導計画を立て、幼児曲の歌唱と弾き歌いを実践することができるようにする。				
授業の方法				
講義 (音楽理論と音楽的成長と発達) を含んだ演習科目である。音楽理論は講義形式 (必要に応じて鍵盤楽器を使用) で行い、理論の理解度を確認するために小テストを行う。演習では、グループ歌唱と各自指導計画を考え幼児曲の弾き歌いを発表し、総合的な音楽表現のための技術の習得を図る。				
学習の成果 (学習成果)				
表現活動 (歌唱と弾き歌い) の実践を展開するために、音楽の知識 (ソルフェージュ) を学び、各年齢での保育活動の内容と指導計画の方法 (導入と方法) を考案することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意点、音楽に関するアンケート			
第2回目	音楽理論：譜表、音名 (日本語、イタリア語、ドイツ語)			
第3回目	音楽理論：音符と休符、拍子とリズム、			
第4回目	音楽理論：音階と調 (C、F、G-Dur を中心とする)、旋律と伴奏について			
第5回目	音楽理論：調の判定：移調、転調の楽譜作成			
第6回目	音楽理論：和音と伴奏法、速度記号や曲想標語			

第7回目	音楽理論：総合的な楽典の見直しと小テスト	
第8回目	講義：乳幼児の音楽的成長と発達	幼児曲演習：弾き歌いと歌唱の実践に向けて①
第9回目	講義：乳幼児の生活と遊び	幼児曲演習：弾き歌いと歌唱の実践に向けて②
第10回目	講義：感性と表現の教育、保育者の役割	幼児曲演習：基本的な伴奏法と簡易伴奏法
第11回目	表現活動の指導計画①（歌唱表現活動の導入）	幼児曲演習：各グループレッスン①
第12回目	表現活動の指導計画②（歌唱表現活動の実践）	幼児曲演習：各グループレッスン②
第13回目	表現活動の指導計画③（指導案計画の完全作成）	幼児曲演習：各グループレッスン③
第14回目	弾き歌いと歌唱表現の実践：グループ歌唱と弾き歌いの発表	
第15回目	グループ歌唱と弾き歌いの総合的な見直し	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	学習意欲を持って授業に参加する。
レポート	10%	表現活動の指導計画について、年齢に適した教材の選定と内容になっている。提出日（第6回、第13回目授業日）にきちんと提出されている。
調査報告書		
小テスト	40%	音楽理論の理解度によって評価する。
試験		
発表内容（態度含む）	40%	歌唱表現での音楽的技術によって評価する。
その他		
教科書と参考図書		
テキスト：幼児のための音楽教育（教育芸術者） 参考図書：幼児曲集（様々な出版社から幼児曲の楽譜が出版されている）		
履修上の留意点・ルール		
授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、飲食は禁止とし、MR I（音楽室）は土足厳禁である。授業内容によっては課題を提出するので、提出内容、期限等は必ず守ること。課題曲の予習（譜読み）、復習（練習）が必要である。		